

新春のご挨拶

(社) 熊本県精神科協会 会長 宮 川 洸 平

平成25年の新春を迎え、謹んでご挨拶を申し上げます。今年の冬は例年になく寒さが厳しく、12月に入り急に冷え込み、一時真冬並みの気候が続きました。昨秋の紅葉も一際美しかったと聞いております。12月は突然の衆院解散となり、29年ぶりに師走選挙が行われました。3年間にわたる民主党政権に対する失望感は強く、民主党惨敗、自民党大勝、第3極が台頭する結果となりました。早速、自民党安倍内閣が発足しましたが、内政・外交ともに大きな課題が山積しています。その中でも経済政策は直面する最重要課題と言われていています。社会保障と税の一体改革がすでに決議されており、今後「社会保障制度改革国民会議」で方向性を決めるようです。年間100兆円を突破し、膨張を続ける社会保障費をどうするのか、いずれにしても給付抑制と国民負担増は避けられない状況です。医療と介護に与える影響には厳しいものがあり、今後の診療報酬改定が気になるところです。また、生活保護費を引き下げるなどと言われていますが、とんでもない話で容認できるものではありません。70～74歳の医療費自己負担を1割から2割にする時期についても、25年夏の参院選を控えているので26年1月から始めると聞いています。選挙目当て、政権維持のご都合主義がみえみえです。TPP（環太平洋連携協定）についても、今回の選挙で農家に反対を約束して当選した自民党議員が多数いるのに、いざ政権をとったら、方向転換もありうるような雰囲気があります。我々の立場から言えば、TPPが医療にどんな影響があるか情報が隠され、説明されていない点に重大な問題があると思われまます。また、報道によりますと一昨年の東日本大震災、福島原発事故から3月でまる2年になりますが、未だ避難者が32万人いるそうです。原発維持であればほど危機感を持った国民は多いのに「喉元過ぎれば熱さを忘れる」とはよく言ったものの、自民党政権が原発再稼働で軸足を向けて容認しようとしているのに、反原発運動が盛り上がらないのも不思議な感じですが。その他、尖閣諸島や竹島の領有権、北朝鮮の拉致問題、沖縄基地移転問題など、外交で幾多の課題を抱えています。政権を選んだのは我々国民ですから、しばらくは様子を見るしかありませんが、今後の成り行きを慎重に見つめて、夏の参院選で考えを主張したいと思ひます。

さて、昨年は、熊精協においては記念すべき年でした。4月1日からは公益社団法人熊本県精神科協会としてスタートしました。各県の医師会、四病協や精神科病院協会その他の機関が公益法人化に難航している中、当協会は早期から取り組み、準備が

周到に行われました。担当委員や全会員の先生方のご理解ご協力に心から御礼申し上げます。今後公益法人としての、その自覚を新たに、役割を果たすために益々努力しなければならぬと思います。

次に9月1日から熊本県精神科救急情報センター業務を開始しました。当センターについては、全国的に熊本県は遅れていましたが、県の委託事業として開始にこぎつけました。本来ならば、熊本県精神保健センターか県立こころの医療センターがやるべき事業と考えていました。この度の実施に際しては、会員の皆様に多大なご負担をかけることになりましたが、その必要性をご理解いただき、全病院に協力をいただきました。心から感謝を申し上げます。

なお、昨年から熊本市が政令指定都市になりました。今まで熊本県健康福祉部障がい者支援課が実施してきた事業の多くが、熊本市障がい保健福祉課に委譲されました。また、熊本市こころの健康センターが設立され、井形るり子先生が初代センター長に就任されました。

近年、地球温暖化が進み、異常気象が世界各地に影響を及ぼしています。昨年7月14日には、九州北部豪雨が発生しました。たった一晩の記録的な集中豪雨により、阿蘇谷一帯に甚大な被害が発生しました。外輪山一帯で数百ヶ所に土砂崩れが見られ、土石流により多くの家屋が崩壊し、25名余りの死者を出し、多くの方が仮設住宅で生活されています。熊本市では、白川が龍田町一帯で氾濫しました。阿蘇やまなみ病院、龍田病院、くまもと青明病院が被災しました。熊精協会員病院から多額の義援金が寄せられました。皆様の温かいご支援に対しまして深く感謝致しますと共に、心から御礼を申し上げます。

その他、6月21日から23日まで、第48回日本精神保健福祉士全国大会が熊本市で開催されました。この大会は、本来なら福島県で開催が予定されていましたが、一昨年の東北大津波と福島原発事故の為に熊本県精神保健福祉士協会が急遽引き受けることとなり、一年前から準備を進めていました。熊精協も側面から協力しましたが、大会運営は見事で大盛況でした。それにしましても、県精神保健福祉士協会の皆さんの厚い友情とそのパワーに心から敬意を表します。

また、9月21日に第50回熊本県精神保健福祉大会が開催されました。女優小山明子さんの特別講演「介護うつを超えて 夫、大島渚を支えた15年」も記念大会にふさわしい立派な内容でした。それにしても50年の歴史の重みを感じます。これも熊精協会の諸先輩の先生方が大変熱心に支援されてきました賜物です。そのご尽力に対して心から謝意を申し上げます。

その他例年通り多くの事業を主催、または後援することが出来たのは会員の皆様のご協力のおかげです。熊精協会員のまとまりの良さをいつもながら実感しますし、

全国的に評価され、うらやましがられていることを誇りに思います。

次に、県内病院の取り組みも時代と共に進歩し、変遷しています。児童・思春期医療、うつ病・ストレス関連病棟、認知症疾患医療などが各病院で積極的に進められています。昨年は、菊陽病院と弓削病院に精神科救急病棟が開設され、熊本県の救急医療に大きく貢献していただき感謝しています。

昨年は、我が協会と関係者にもいろいろ慶弔がありました。原田正純先生が6月11日、清田一民先生が6月14日、三浦洋一先生が7月14日、松田病院名誉院長松田艶子先生が9月14日にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

一方、会員の慶事としては、秋の叙勲で八代更生病院理事長今村泰雄先生が瑞宝小綬章を受章され、日隈病院副院長の村山栄一先生が厚生労働大臣表彰を受賞され、弓削病院院長相澤明憲先生と植木シルバークリニック院長武原重春先生が熊本県知事表彰を受けられました。多年に亘る精神保健医療福祉のご功績に対しまして深甚の敬意と祝意を表します。

以上、書き漏らしたこともあるかと思いますが、昨年も変化の多い、中身の濃い1年でした。政治や社会状況もしばらくは混迷の時代が続くと思われまます。

新年が皆様にとりまして希望に満ちた明るい年となりますことを祈念しまして、ご挨拶と致します。